

相川会員

①二段階でなく三段階として提起されたことの意味——共同体の崩壊と言うだけでは、新しい展望が開けない。②抽象的な社会関係、組織体の概念を実証可能な概念とするが必要である。③その場合、生産手段や土地をめぐる生産関係を社会関係にどうつなげていくのか——今回の報告では、その点を省略した。④また水平的分業から垂直的分業への転換条件はなにか。

高橋会員

①共同体志向型家族は漁村等でみられるが、歴史の上ではどこに位置づけられるのか——共同体志向型家族は奈良時代までさかのぼるが、モデルの原点としてもとらえることができる。②通文化比較のために家族、地域社会という概念を使うとしながら、家を前提とした家族類型が用いられている——日本では家を離れて家族を実感できない。③第三段階では、新しいコミュニティーが想定されているが、それ自体がモデル化してしまい、多様な個人が混在している現実が無視されはしないか——現在における個人の多様性をとらえるために、家志向型家族と個人志向型家族の中間として直系分居家族と言った言葉も使ってみた。

東会員

展開段階と類型の関係について、ある段階の中で類型を考えるのか、それとも段階と類型は対応するのか——当初は地域比較のために家族類型を考えたが、それにとどまらなくなり、時代的な類型とした。

〈討
論〉

討論は、表1に示される整理を中心に行われた。主な意見・質問とそれに対する回答は、次の通りである。